

静岡市立由比北小学校



出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和4年5月10日(火)

歴史授業の導入としても効果的！

由比北小学校の6年生10人が、社会科の学習で、大昔の暮らしを実体験することを目的に、6年部の永倉先生が出前授業を計画し土器の分類と火おこしの2つの体験活動を行いました。

土器の分類体験



・いろいろな焼き方があることをしれました。
・土器を分類するとき、さわり心地や音を比べて分類することができました。

「土器の特徴について詳しく学ぶことができました！
初めて知ることがあり、とても勉強になりました。」

まだ歴史の授業が始まっていないため、年表を見ながら、現代から古墳時代、弥生時代、縄文時代、旧石器時代まで遡り、簡単な流れを話しました。時代が少しわかったところで、縄文・弥生・古墳時代の土器の完成品を見ながら、土器片を分類しました。大まかな分類をしたところで、答え合わせをしました。完成品の土器をよく観察したり、触ったり、音を聞いたりしたことで違いがわかり、土器片の分類が成功しました。

弥生土器と須恵器の見分けが難しく、かなり悩んだ土器片もありましたが、土器の作り方の話から、厚さや線の模様、色の特徴を見分け分類できました。

10人全員が感想を話してくれました。

火おこし体験



この日をとても楽しみにしていたので、すごく興奮していたようです。気持ちの良い青空が広がる日でしたので、運動場の校舎側で火おこしを行いました。初めは、もみきり法や弓きり法、舞きり法などの火おこしの歴史について学びました。次は自分たちが舞きり法で実践です。あまり風も吹かない好条件の中で、2人1組で弾み車を回し始めました。2人で協力して火きり弓を押しながら、火種を作ることができました。

次は「フーフータイム」。火種が十分にできていない状態で火口に掛けてしまい、火が起きないこともありました。火種から火にするまでが意外に大変なんだと感じていました。煙が目にしみて息を吹き続けることがなかなか大変でした。やっと火口が燃え上がったときはうれしそうにしていました。すばらしい達成感を味わうことができたようです。

永倉先生の感想

「火起こしがどれだけ大変だったのか、実感することができました！歴史の勉強に入る前でしたが、子どもたちはとても興味をもってお話を聞かせていただきました。単元の導入としても効果的だと感じました。」



・もう一度やりたい！
・苦戦したけど、二人で協力してやっとできた！
・めちゃくちゃ興奮した！
キャンプでもやる。
・おもしろかった。
・火がついてうれしかった。